第Ⅲ章　位置と環境

1. 地理的環境（第１図・第２図）

植木町の地勢は、熊本県における洪積台地の典型とされる広大な肥後台地のうち、北西端に形成された植木台地とそれを開折する大小の谷部からなる。植木台地は、標高約 60 ～ 100 m、南北方向に長い台地である。東は菊池川支流の合志川と白川支流の坪井川によって画され、西は金峰山系の三ノ岳山体に接する。北には菊鹿盆地が広がり、南には京町台地が連続して、その向こうには熊本平野が開けている。

本書で報告する西南戦争遺跡は、主に植木台地の西部、大字名から豊岡台地と通称される半独立丘陵とその周辺に存在する。豊岡台地は、西側を菊池川支流の木葉川に、東側と北側をその支流の中谷川によって侵食された、南北延長約 1.6 ㎞、南北方向に長い台地である。南側は東西両方向からの侵食谷により緩やかに分断され、この付近が字境（大字豊岡の南端）で、以南は大字轟となる。台地斜面は急勾配で、縁辺には小支谷が複雑に入り組んでおり、これによって分断された舌状の小丘陵が発達している。戦いにおいては、守備に適した要害地形といえる。本台地には旧三池往還が貫通しており、そのうち北西部の長さ約 1.5 ㎞、標高差 80 mの坂道が田原坂である。

2. 歴史的環境

ａ．周辺の遺跡（第１図・第２図）

第１図をもとに記す。周辺においては菊池川支流の中小河川が多い。豊岡台地の位置する北側では、概ね北西方向に流れる木葉川（一次支川）とその支流の中谷川（二次支川）、中谷川に注ぐ大平川・馬瀬川・小畑川（三･四次支川）が、西方に金峰山塊の裾部が伸びる中央東側では、概ね北東方向に流れ合志川（一次支流）に注ぐ菖浦川（三次支川）が、南側では概ね西方向に流れ、木葉川に注ぐ神ノ木川（二次支川）が、それぞれ洪積台地を浸食しており、さらには入り込んだ支谷が発達している。遺跡は主に、上記により複雑な形状を呈する洪積台地上に認められる。

周辺の歴史的特徴を顕著に示すのは、主に以下３時期の遺跡である。

平安時代前期（9 世紀前半）の遺跡は多く、特に神ノ木川・菖浦川流域において濃密である。この地域の主な遺跡では、土師器焼成遺構を検出した田子山遺跡（42）（植木町教委 1996）、越州窯系青磁水注を供献した土坑墓を検出した塔ノ本遺跡（67）（植木町教委 2004）、3 × 3 間の礎石が並ぶ基壇が検出され、塔が存在したとみられる富応廃寺（24）（植木町史編纂委員会 1981）が挙げられる。これらが立地する台地に囲まれ、菖蒲川によって開折された比較的広い谷部には五反田・六反田といった数詞地名（小字）が見られる。後世の開発等によって地割は不明ながら、当時、条里制に基づく耕地整備がなされ、上記の遺跡が成立する基盤となったと考えられる。その他では、中谷川右岸丘陵の平須恵器窯跡群（5）が特筆される。現在の植木町域は、古代山本郡の範囲とほぼ同じである。山本郡は、貞観元年（859）に合志郡から分立したもので、上記の状況は、この分立の契機や結果としての興隆といった関連があると考えられる。

中世の資料も多く、埋蔵文化財の他に、寺社や石造物などが見られる。発掘調査事例では、滴水館跡(76)・轟城跡（64）の成果を挙げる。滴水館跡では中世に構築されたとみられる土塁・堀が残存している。土塁は幅約 5m・高さ 1.3 mで東西方向に伸び、土塁の北に沿う堀は幅約 4 m・深さ約 1 mの規模を備えたものである（植木町教委 2001）。轟城跡では堀跡から瓦質土器が多量に出土しており、擂鉢については擂目が X 字状に交叉する当該地域に特徴的な形態が多い（植木町教委 2004）。近くに生産地が存在する可能性を指摘できる。石造物は豊岡台地に多く分布しており、田原の五輪塔（17）・舟底五輪塔（20）など鎌倉期の五輪塔のほか、戦国期の板碑が見られる。当該地域の中世においては、寿永年間創建とされる龍源寺跡（55）や田原熊野座神社（第２図 28）が中世肥後の最大の在地領主、菊池氏の創建と伝わること、当

第１図　周辺遺跡分布図（1／20,000）

第3表　周辺遺跡一覧表

※番号は第1図に対応

番号	名　称	主な時代
1	鈴麦浦田遺跡	古代
2	大平城跡	中世
3	正院浦遺跡	平安
4	内空閑城跡	中世
5	平須恵器窯跡群	平安
6	鈴麦平畑遺跡	古代・中世
7	北楠原遺跡	平安
8	南楠原遺跡	平安
9	荒平城跡	中世
10	豊岡の眼鏡橋	江戸
11	谷の板碑	中世
12	谷の眼鏡橋	昭和
13	田原坂	明治
14	岡林遺跡	縄文・中世
15	田原城跡 田原寺跡	平安・中世
16	田原古墳	古墳
17	田原の五輪塔附板碑	中世
18	宮ノ前遺跡	中世
19	舟底の十一面観音立像	室町
20	舟底五輪塔附板碑	鎌倉
21	舟底遺跡	古代・中世
22	田原坂公園板碑	室町
23	藤原遺跡	縄文・平安・中世
24	富応廃寺	古代
25	穴観音古墳	古墳
26	丸塚古墳	古墳
27	西山遺跡	縄文・平安・中世
28	中久保遺跡	縄文・鎌倉・室町
29	立花木遺跡	縄文・平安・中世
30	七本薩軍墓地 熊本諸隊奮戦地碑	明治
31	鎌地遺跡	中世
32	柳迫遺跡	縄文・中世
33	多尾遺跡	縄文・平安・中世
34	七本官軍墓地	明治
35	富応田中原遺跡	旧石器・縄文
36	外土井遺跡	縄文・平安
37	富応久保遺跡	縄文・弥生・平安・中世
38	富応芝原遺跡	平安
39	原口遺跡	縄文・平安・中世
40	沖野遺跡	縄文・平安
41	後古閑立野遺跡	縄文・弥生・平安・中世
42	田子山遺跡	縄文・平安
43	迎畑遺跡	縄文・弥生・平安・中世
44	後野遺跡	縄文・平安・中世
45	鞍掛山城跡	中世
46	南畑遺跡	縄文・平安・中世
47	埋原畑遺跡	縄文・平安・中世
48	埋原城跡	中世
49	埋原1号洞穴	弥生～古代
50	埋原2号洞穴	弥生～古代
51	那知1号洞穴	弥生～古代
52	埋原3号洞穴	弥生～古代
53	那知2号洞穴	弥生～古代
54	那知3号洞穴	弥生～古代
55	龍源寺跡	中世
56	龍源寺跡板碑	中世
57	龍源寺跡十二仏龕佛	中世
58	生野原遺跡	縄文・平安・中世
59	轟芝原遺跡	縄文・弥生・平安
60	五次郎丸遺跡	平安・中世
61	轟辻畑遺跡	縄文・平安・中世
62	轟久保遺跡	縄文・弥生・平安・中世
63	下道丸遺跡	縄文・中世
64	轟城跡	中世
65	轟横穴群	古墳
66	轟田中原遺跡	縄文・弥生・平安
67	塔ノ本遺跡	旧石器～弥生・奈良～中世
68	乗尾遺跡	弥生
69	大道端遺跡	縄文・弥生・平安・中世
70	轟今古閑遺跡	弥生・古墳・平安
71	轟遺跡	弥生・古墳・平安
72	尖り遺跡	縄文・弥生・奈良～近世
73	城之内古墳	古墳
74	滴水西原遺跡	縄文・弥生・古墳・平安
75	内山遺跡	縄文・弥生・平安・中世
76	滴水館遺跡・滴水館跡	縄文～中世
77	無名墳	古墳
78	ヲスギ横穴群	古墳
79	ヲスギ遺跡	縄文・弥生・平安・中世
80	河原立遺跡	縄文・弥生・平安・中世
81	滴水向原遺跡	縄文
82	松村刀鍛冶跡	江戸
83	平野西原遺跡	弥生・平安・中世

該地域を含む山本郡最大の荘園（山本荘）を菊池氏が荘官職として支配していたとみられることから、少なくとも平安期末頃には菊池氏の勢力が伸張していたと考えられる。植木町内には、菊池氏創建と伝わる寺社が多く、このことを反映している。また、中世後期においては、菊池氏に属しつつ、その滅亡後の戦国期末まで山本郡最大の国人領主として続いた内空閑氏の支配下にあったとみられ、大平城跡（2）・内空閑城跡（4）・荒平城跡（9）などが内空閑氏居城と伝わる（熊本県教委 1978）。以上、周辺域における中

世遺跡の多くは、菊池氏・内空閑氏との関連が想定し得る。

周辺の遺跡において最も大きな特徴は、主戦場となった豊岡台地上だけでなく、少量ながらも必ずと言って良いほど小銃弾などの西南戦争関連遺物が出土することである。銃砲弾は数百メートル以上飛ぶので、このことで、即、出土地を戦場跡と判断することはできないものの、戦場が一部、飛火、拡大した可能性を示すものといえる。また、豊岡台地南側の大字轟の台地上には、七本官軍墓地（34）・七本薩軍墓地（30）が存在している。

ｂ．周辺の西南戦争関係資料（第２図）

前項から範囲を広げて、周辺における埋蔵文化財の他の西南戦争関係資料を紹介する。

植木町と隣接する玉名郡玉東町は、緒戦となった向坂・木葉の戦い（2 月 22・23 日）から、その後の半高山・吉次峠の戦い（3 月 3 日～ 4 月 1 日）、田原坂の戦い（3 月 4 ～ 20 日）、木留・荻迫の戦い（3 月 20 日～ 4 月 15 日）など、西南戦争の早・前期（中原 2021）の戦場となった。

向坂・木葉の戦いは、陸路北進する薩摩軍を政府軍が迎え撃った遭遇戦、2 月 25 ～ 27 日の高瀬の戦い後に行なわれた半高山・吉次峠の戦い以降は、熊本城救援を目指して南下する政府軍とこれを阻止せんとして要害・構築陣地に拠る薩摩軍との攻防戦であった。それ故、戦いは、行軍・兵站の利便性から当時の主要三道、豊前街道・三池往還・吉次往還沿いとその周辺において展開された。豊前街道は小倉を基点として南関・山鹿・植木を経て熊本城に至る、三池往還は大牟田から高瀬・田原坂を経て植木で豊前街道に合流する、吉次往還は高瀬から吉次峠を経て熊本大窪で豊前街道に合流する街道で、いずれも少なくとも中世には整備されたものである。このなかでも田原坂を通る三池往還は、他の二道に比べ平坦な道が続き、唯一の難所といえるのが田原坂である。その後、植木から豊前街道に入って向坂を越えれば、熊本城までは上り下りの少ない凹道が続く。このことから三池往還は政府軍の主要南下経路となり、結果、田原坂の戦いが最大の激戦となったといえる。

戦場を示す資料としては、弾痕が認められる、あるいは小銃弾・砲弾片そのものが刺さり内包される木造建物・石造物・樹木などがある。木造建物については、当時からあったものの他に、田原熊野座神社社殿（28）のように戦後、再建した際に建築材として使用した周辺の樹木に撃ち込まれていたものが認められる事例もある。石造物については、比較的軟質の阿蘇熔結凝灰岩製のものに認められる。樹木の場合、現状では目視できないが田原坂公園の大クス（31）のように明確な金属反応が認められるものもある。

その他、戦場後方の政薩両軍の本営・繃帯所跡、さらには戦後に整備・造立された墓地、慰霊碑・顕彰碑・詩碑などの記念碑があり、その種類は多様でかつ数多い。このことは、広域かつ長期に戦場となり、また、それによって戦い全体の帰趨に大きく関わったという、西南戦争における当該地域の特徴や重要性を反映したものといえる。

〔参考文献〕

植木町教育委員会 1996『植木町文化財調査報告書第 6 集　田子山遺跡』

植木町教育委員会 1999『植木町文化財調査報告書第 10 集　植木町遺跡地図－町内遺跡詳細分布調査―』

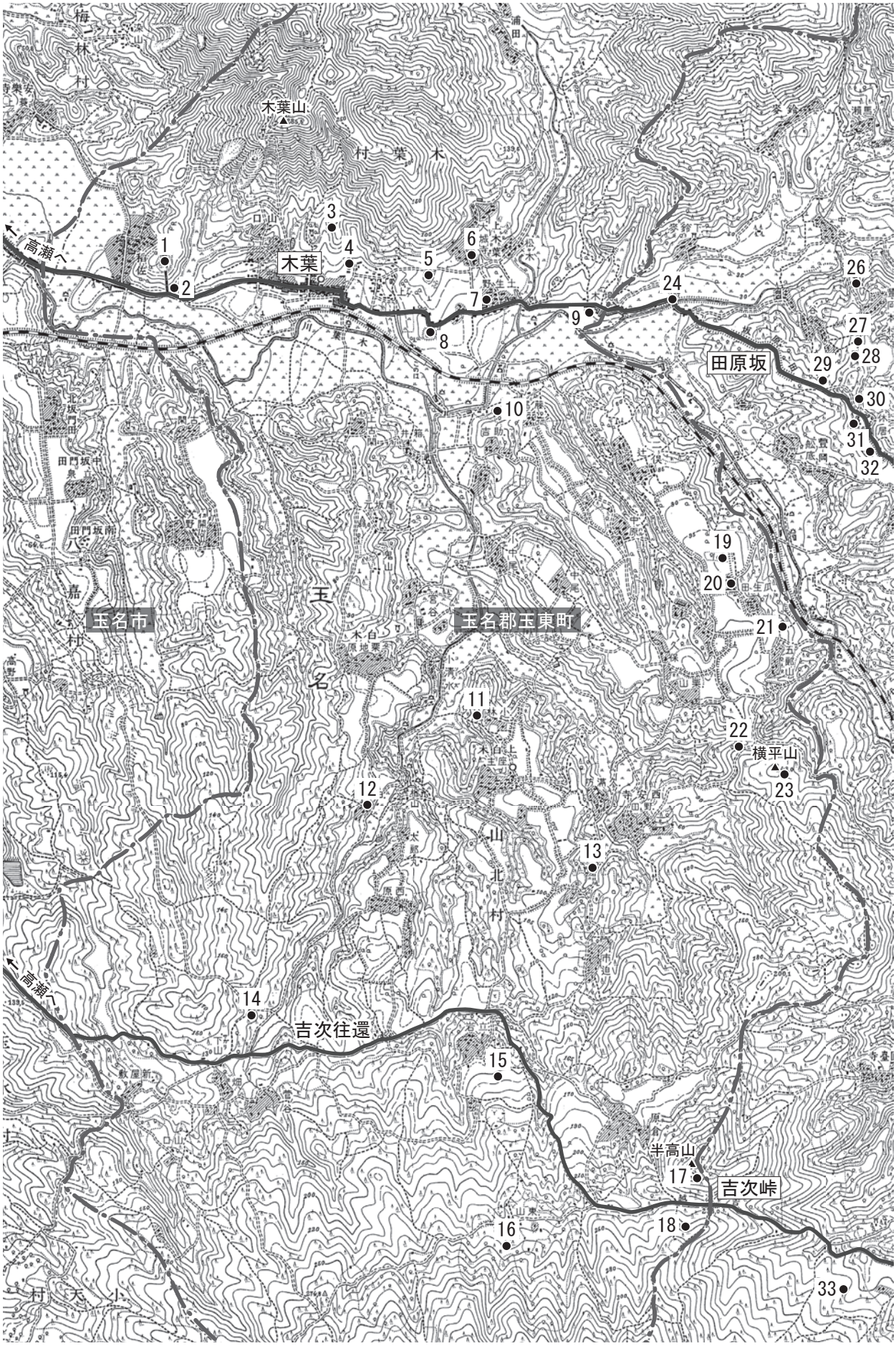
植木町教育委員会 2001『植木町文化財調査報告書第 12 集　平成 12 年度植木町内遺跡発掘調査報告書』

植木町教育委員会 2004『植木町文化財調査報告書第 18 集　塔ノ本遺跡　今古閑久保遺跡　滴水尖遺跡　轟城跡　ヲスギ遺跡　轟地区ふるさと農道緊急整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』

熊本県教教育委員会 1978『熊本県文化財調査報告　第 30 集　熊本県の中世城跡』

植木町史編纂委員会 1981『植木町史』植木町

中原幹彦 2021『シリーズ遺跡を学ぶ 153　西南戦争のリアル　田原坂』新泉社



第 2 図　周辺の西南戦争関連資料（1／28,000）

※「明治 33 年測図『二万分一地形圖熊本近傍九號 植木』大日本帝國陸地測量部」に加筆

第4表　周辺の西南戦争関係資料一覧表

※番号は第2図に対応，名称は通称

番号	名　称	番号	名　称
1	稲佐神社(薩摩軍砲台跡)	28	田原熊野座神社(宮ノ前戦跡，社殿・鳥居・灯籠等に弾痕・銃砲弾)
2	乃木希典奮戦の地碑	29	谷村計介之碑・西南の役戦没者慰霊碑
3	宇蘇浦官軍墓地	30	弾痕の家(松本家土蔵)跡地
4	徳成寺(政府軍繃帯所)	31	田原坂公園北側(戦跡，崇烈碑，大クスに金属反応)
5	丸田公園(有栖川宮督戦の地碑)	32	田原坂公園南側(戦跡，80周年慰霊碑)・田原坂西南戦争資料館
6	上木葉官軍本営跡	33	山縣有朋歌碑
7	正念寺(政府軍繃帯所，山門・石段等に弾痕・小銃弾)	34	七本官軍墓地
8	高月官軍墓地	35	七本薩軍墓地・熊本諸隊奮戦地碑(薩摩軍七本柿木台場跡)
9	田原坂攻撃官軍第一線の地碑	36	河原立薩軍墓地
10	櫻田惣四郎(熊本隊参謀)辞世詩碑	37	薩軍病院跡
11	上白木弾痕の家跡（柱に砲弾痕，現田原坂資料館展示）	38	熊本隊本営跡
12	薩軍三勇士の墓	39	薩軍本営跡
13	白山宮（灯籠に弾痕）	40	辺田野熊野座神社(乃木希典詩碑，社殿に弾痕)
14	原倉西官軍砲台跡	41	乃木大将記念碑（伝千本桜）
15	立岩砲台跡	42	薩摩軍弾薬庫跡
16	篠原国幹戦没の地碑	43	植木学校跡（植木学校指導者が後に熊本協同隊を結成）
17	半高山公園（半高山戦跡）	44	仁連塔神社（社殿に弾痕・小銃弾）
18	吉次公園(吉次峠戦跡，佐々友房の詩碑・谷村計介碑)	45	滴水官軍本営跡
19	二俣瓜生田官軍砲台跡	46	石塔台場跡（近くの墓地の墓石に弾痕）
20	官軍本営出張所跡(石積に弾痕)	47	荻迫柿木台場，薩摩軍美少年の墓
21	二俣古閑官軍砲台跡	48	山頭遺跡第4次調査地（政府軍陣地跡）
22	薩軍兵站の地	49	山頭遺跡第5次調査地（薩摩軍陣地跡）
23	横平山公園(横平山戦跡)	50	荻迫観音（石祠に弾痕）
24	豊岡の眼鏡橋（政府軍攻撃基点）	51	荻迫神社（社殿に弾痕・小銃弾）
25	平原の民家跡(柱に小銃弾)	52	植木天満宮（向坂緒戦の地跡）
26	豊岡小学校跡地(北平古道戦跡)	53	河原林少尉戦死の地
27	田原の五輪塔(弾痕多数，近くの墓地の墓石にも弾痕)	54	明徳官軍墓地（向坂官軍墓地）

丸田公園（有栖川宮督戦地）から見た戦場一帯